



# 障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援するために

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

## 第5回 第19回全国障害者スポーツ大会 「いきいき茨城ゆめ大会」における活動報告

茨城県作業療法士会 荒井 裕久 (水戸赤十字病院)  
柘植 哲洋 (つくばセントラル病院)

### はじめに

この度の台風19号の被害に遭われた皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

皆様もご存じの通り、2019年10月12日～14日の日程にて茨城県において第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が開催される予定となっていたが、台風の影響を受け、大会史上初めての全日程中止となった。

茨城県も最後まで開催を模索し続けたが、10日午後に「選手や県民の安全を第一に考え、全日程を中止する」と決定した。11日には公式練習日もあり、選手団5,800人のうち10日時点で他県から2,500人がすでに茨城県入りしており、主催者・選手・関係者にとってたいへん残念な結果となってしまった。

茨城県作業療法士会としても茨城県からの依頼を受け、他団体（茨城県アスレチックトレーナー協議会、茨城県鍼灸師会、茨城県柔道整復師会、茨城県鍼灸マッサージ師会、茨城県理学療法士会）とコンディショニンググループの運営に向け1年以上前より準備してきたためたいへん残念な判断であったが、その後の状況を考えると最善の選択であったのではないかと思う。

本来であれば、本誌にて大会中のコンディショニンググループ運営に関してご報告する予定であったが、残念ながら中止となってしまったため大会に至るまでの茨城県作業療法士会としての関わりを皆様にご報告するので今後の運営の参考にしていただければ幸いです。

### コンディショニンググループ設置の目的

コンディショニンググループは、大会参加選手が万全な状態で大会に臨めるよう、選手の体をほぐしたり、競技前の筋肉の疲労回復を図ったりする目的で設置している。サービス内容としては、マッサージ・ストレッチ・テーピング・運動指導・アイシング・はり等で各職能団体が可能なサービスを提供する。選手の利用が中心だが、時間が空いていれば同行のスタッフも受けることが可能となっており“おもてなし”の意味合いの強いものとなっている。

### コンディショニンググループ担当会場の決定について

2018年3月に茨城県よりコンディショニンググループ運営への協力依頼があり、同年6月に他団体とコンディショニンググループ運営検討部会を開き、各団体が担当となる競技会場を決定し、茨城県作業療法士会はフライングディスク、バレーボール（精神と知的）の3会場の担当となった。

先催県では、各職能団体が単独で各会場の運営にあたっており、当士会も当初上記3会場の会場担当となったが、茨城県理学療法士会との話し合いの下、お互いの特性を生かした関わりができれば、選手の皆様により良いサービスが提供できるだろうと考え、茨城県理学療法士会と合同にて運営にあたることとし、茨城県理学療法士会の担当であった陸上、ソフトボール・フットベース（知的）の2会場と併せ5会場にて合同で運営することとした。

## コンディショニンググループ従事者の募集・研修会について

全体の管理者と作業療法士主担当である3会場責任者の計4名のコアメンバー決定後、コンディショニンググループ運営に従事するスタッフの募集を2018年10月より開始した。最終的に26名の茨城県作業療法士会員の協力が得られ、大会3ヵ月前には県へ各会場の担当者リストを提出、その後、適宜調整を行い、大会1ヵ月前に各会場の担当者の最終決定を行った。

実際に障害者スポーツに関わっている会員は数名であり、運営にあたってどのようなことを行うのか、選手に対してどのような関わりが必要なのかを学ぶため、計3回の研修会を企画・開催した。第1回目は、茨城県作業療法士会として2019年3月29日に全国障害者スポーツ大会についての概要と2018年度の福井大会でのコンディショニンググループ視察の報告を実施した。第2回目は、2019年7月15日に、茨城県アスレチックトレーナー協議会主催にて、各職能団体のコンディショニンググループ従事者を対象に、障害特性の理解、障害特性（脊髄損傷・脳性麻痺・切断・知的・精神）とサポートの留意点等の研修を行った。第3回目は、2019年9月1日に茨城県理学療法士会主催にて、コンディショニンググループ運営に関する留意点・テーピングの実技を行った。茨城県理学療法士協会とコンディショニンググループを合同で運営を行うことが決定し

た後に開催されたこの研修会では、各会場従事者の顔合わせも兼ねており、テーピングの実技練習は、各会場従事者同士のグループで実施した。

## 最後に

大会中止決定の後、台風の接近に伴い慌ただしく撤収作業に追われる会場を訪れたが、本来多くの選手・関係者が集まり、競技を行っていた会場を想像すると悲しく切ない気持ちとなった。残念ながら茨城ゆめ大会は中止となってしまったが、大会の準備にあたり、障害者スポーツに関わる多くの関係団体や県士会員とのつながりが作れたことは大きな財産となったと感じている。今回築き上げた県士会員と茨城県理学療法士会とのつながりを大切に、近い将来何らかのかたちで、また一緒に活動ができるように検討していきたいと考えている。

スポーツは、ICFでの活動・参加レベルの向上にもつながり、我々作業療法士としても積極的に関わっていくべき領域だと感じている。この大会を一つのきっかけとし、少しでも多くの作業療法士が障害者スポーツへの関心をもち、障害がある方の活動参加の場を広げていけるように、今後も茨城県作業療法士会として取り組んでいきたいと考えている。

最後になるが、大会の運営にあたりご協力をいただいた大会関係者、県士会員の皆様、そして一緒にコンディショニンググループの運営する予定であった茨城県理学療法士会の皆様に感謝申し上げます。



リハーサル大会(5月26日開催)のフライングディスク会場の様子



選手へ授与される予定であったメダル